

2018年1-3月期四半期別GDP速報(1次QE)公表に際しての
茂木経済財政政策担当大臣談話

2018年5月16日(水)

1. 本日公表した2018年1-3月期GDP速報では、実質成長率は、前期比マイナス0.2%、年率に換算するとマイナス0.6%となった。

名目成長率は、前期比マイナス0.4%、年率に換算するとマイナス1.5%となった。

野菜価格の上昇といった一時的な要因や前期に増加したスマートフォン等の反動減もあり、個人消費が前期比マイナス0.0%と横ばいとなった。

ただし、今回の結果は、実質成長率が2017年10-12月期まで8四半期連続の前期比プラスとなった後のものであり、2017年度を通してみれば、実質成長率は前年度比1.5%、名目成長率は前年度比1.6%となっている。3年度連続で名目、実質ともにプラスの成長となった。

景気については、ゆるやかに回復しているとの認識に変わりはない。

2. 先行きについては、海外経済の回復が続く下、各種政策の効果もあいまって、雇用・所得環境の改善が続いている。このため、消費や設備投資など民需を中心とした景気回復を見込んでいる。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

3. 政府としては、「生産性革命」と「人づくり革命」を推進し、経済の好循環を更に確実なものとするため、骨太方針2018の取りまとめに向けて、議論を深めていく。また、平成29年度補正予算及び平成30年度予算を迅速かつ着実に実施する。

(以上)